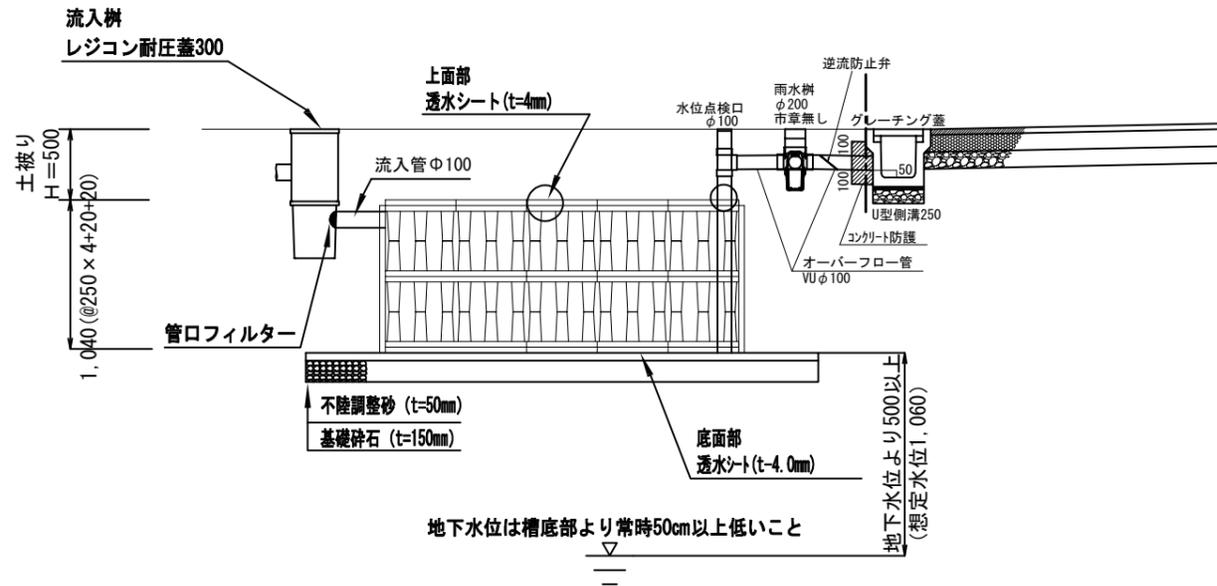
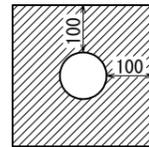


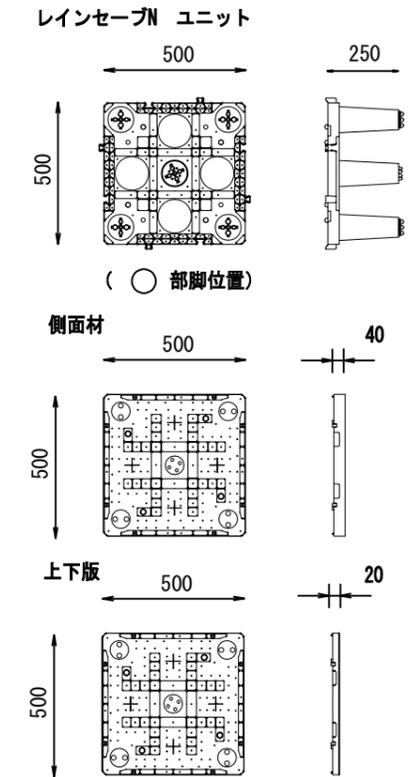
断面図



コンクリート防護



部品図 (S=1:25)



槽概要	数値
配置面積 (m <sup>2</sup> )	9.49
容量 (m <sup>3</sup> )	9.86
有効容量 (m <sup>3</sup> )	9.36
空隙率 (%)	95.0

設置数 : 8  
 貯留量計算式  
 $3.08m \times 3.08m \times 1.04m = 9.86 \times 0.95 = 9.36m^3$

※注意事項

- ・ レインセーブNは、建物基礎等の荷重の影響を受けないよう、建物から十分離してください。
- ・ 埋め戻し後は、土被り荷重を含めた鉛直荷重を36kN/m<sup>2</sup>以下にしてください。
- ・ 埋め戻しが完了するまでは、地下水や降雨による浮力の影響を受けないよう排水対策を行ってください。
- ・ 埋め戻しは、良質土を用いて行き、偏荷重とならないよう4辺から均等に埋め戻してください。
- ・ 地下水位は、槽底部より50cm以上低いものとします。
- ・ レインセーブN上部や周辺でのクレーン作業は行わないでください。
- ・ 上載荷重はT-2（普通乗用車程度）にて設計。施工中を含め槽の上部に重機や中・大型車が載らないこと。
- ・ 最大埋設深度は、GLから槽底部まで2.5mです。

※地下水位の想定深さは千葉市HP菅田小学校および近接現場高田町1068の地質柱状図から判断したものである  
 「孔内水位⇒菅田小学校7.8m、16.5m・高田町3.5m、2.6mの最小値を採用した」

※構造物から50cm以上の離隔を確保すること。

※地下水位から50cm以上の離隔を確保すること。

※設置にあたっては、施工前に地下水位との離隔を確認し、その結果を遅滞なく土木管理課に報告するとともに、確認資料を提出すること。確認の結果、当初設計の前提としていた地下水位と相違があり、計画の変更が生じる場合は協議すること。離隔を確保できない場合は再度協議すること。

※敷地境界（道路及び隣地）から50cm以上の離隔を確保すること。

※浸透槽が現況地盤内に入るよう設置すること。

事業名	千葉市緑区高田町 造成工事	図面種別	雨水浸透槽構造図		事業主	美樹観光 株式会社	
事業区域	緑区高田町1078番7・同番8・1079番2	縮尺	1/300	作成年月日	令和6年8月	図面番号	設計者氏名 株式会社 藤テトラ開発 小林 正和